

社会福祉法人クローバー 2014年度 後期 事業報告

【 振り返り 】

各事業所とも大きな問題なく2014年度を終わることが出来ました。

利用者も少しずつ増えたこと、受注仕事の依頼が増えたこと、新しい受注を始めたこと。嬉しい知らせがたくさんありました。

また、以前に比べ職員の研修への参加率も増えたこと、特に研修等の情報提供をすると職員から、この研修に参加したい！、と声があがることもあり、活発な活動が転回されているように思います。

そして法人としての動きは…。

2014年度はあらためて策定した、法人理念と支援姿勢に則った支援が出来るよう心がける事に重点をおいてきた。各事業所においては職員が戸惑いながらも支援姿勢に忠実な支援をしようと心がけている場面を目にすることが多く見られた。しかし、支援姿勢で掲げた事は容易な事ではなく本質的にとっても難しい事であるため、なかなか受け入れ辛いようである。これからも引き続き、各事業所を廻り、支援姿勢の具体的な対応方法を伝えていきたい。

支援姿勢の中で、特に戸惑いを感じているところは…

怒らない、声をあげない、注意しない工夫をする、というところだろうか。

注意をしてはいけないと言っているわけではなく、注意をしなくて済む工夫をしようということ。考えさえ変えれば本当に注意する必要はなくなる。注意するのは相手に悪意がある時だけ。僕らの周りに悪意を持っている人なんていない。だから注意することなんてない。怒らなくても済むようになる。

怒る、声をあげる、注意する、ということはどういうことか、それは相手に自分の思い通りになって欲しい時。そんな時だって、声を強くする必要はない。ただ単純にそうして欲しいとお願いをすればそれで済む。

強い態度で相手に接した時、相手の様子が変わってもそれは改善ではなくその場面だけのこと。その場面が変わればまた繰り返される。だからその翌日、またこんなふうに云う。『昨日も云ったでしょう。何度言えばわかるの…』

実際の場面では、職員がこうして欲しいと思うが、なかなかその通りにはいかない事が山のようにある。そんな時には、〇〇してくれたら嬉しい…、〇〇してくれたとても助かる…。例え、それが毎日のことでも、あたりまえだと思えることでも。

外から帰ったら手を洗う…

- × 外から帰ったら手を洗いなさいって言っているじゃない、何回、言えばわかるの！
(手を洗ったら…) 言われなくてもやるの！ いい！

○ 外から帰ったら手を洗ってくれる？

(手を洗ったら…) 綺麗になったね、ありがとう。

こんなふうを考えてみる。

外から帰って来て手を洗わないとどうなる。 不衛生。 冬はインフルエンザが流行する恐れがある。 職員としてはインフルエンザの感染を抑えたい。 だから外から帰ったら手を洗って欲しい。手を洗って欲しいのは職員の願い。 だから手を洗うことをお願いして、それに答えてくれたら素直にお礼を言えば良い。

職員がこんなことで声を荒らげていると、それを見ていたメンバーが真似をして同じようにそのメンバーに接する。 狭い空間の中で、その嫌な空気感を作りたくない…。

【 実施事業について 】

・ 送迎事業

外部委託コース GH⇔Begin, いとぐるま⇔であいの里

送迎 Vo (有償) と職員コース GH⇔フロンティア

職員コース いとぐるま⇔地域施設

現状、一路線を外部委託。 職員の負担を軽減することが出来たが、経費、添乗職員の確保、添乗職員の労働時間と、まだ課題も多く残っている。

福祉局の監査においては、生活介護事業所として送迎はするべきであるという意見があったが、送迎事業の拡大については、プログラムの実施との兼ね合いもあり現実的には難しく、もう少し他の事業所との情報交換を深めながら問題解決にあたりたい。

・ 看護師による事業所の巡回

看護師の所見を活用したケース会議が頻繁に開かれるようになった。

・ 防災訓練

各事業所、通常の活動、個人の生活を維持しながら、毎月確実に防災訓練を実施しその報告を必ず作成しているということは大変評価できることでありとても嬉しく感じている。

そして今年度、あらたな試みとして毎月の事務局会議にて実施内容の振り返りを行った。 それによって見えてきたことは…。

- ・ 職員, 利用者ともとても積極的に訓練に取り組んでいる。
- ・ 創意工夫をし、その事業所の特性にあった訓練を実施している
- ・ 職員, 利用者共に防災訓練に慣れすぎてしまっている。
- ・ こういう時はこうするべき、こうしなければいけない、という思い込みが強い。

この結果から、2月に実施した全体防災訓練は、事前に事業所に訓練内容を伝えることなく、より臨場感を高めること、日頃の成果を生かすこと、その点にポイントをおいて実施。 一部の事業所においては、通常のプログラムを優先してしまい残念な結果になってしまったが、大半の事業所では咄嗟の対応に重点をおいた訓練ができた。 特にホームにおいては入浴中に地震が発生するとい

う経験をすることもでき、良い訓練になったのではないかと思う。

また、防災マニュアルの作成も継続して行い、12月実施の理事会、評議員会において完成版を提示する。

・研修 ※詳細別紙参照

以前に比べて活発に参加することが出来るようになった。

・自立支援協議会主催の人権に関する研修に法人全体で参加

・GH職員自らが企画してアンガーマネジメント研修をホーム職員全体で実施

職員個人個人で研修に参加する機会も増えているが、参加者に偏りもあり、今後、情報提供だけでなく参加を促す声かけも必要と思う。

・地域との関わり ※詳細別紙参照

※GH連絡会でのこと

こんな話があった。『障がいのある人へジョーダンで何かを言ってはいけない』

職員はジョーダンのつもりで話したかもしれないが、聞いている側はそうと受け止められない場合がある。たしかに。相手に障がいがあるなしにかかわらず、コミュニケーションの一つとしてどこでもいつでもジョーダンを多用するのは考えたほうが良い。

そして最近気になったのが、ちょっとした日常会話で繰り返される、冷やかしやからかい。

冷やかしやからかいで得た笑いはコミュニケーションではないし、それで場が和んだ、盛り上がったと思ったら大きな間違いだということに気がつかなければいけない。

・ひやりはっと、事故報告 事例

※詳細別紙参照

・日中活動事業所 給食メニューの見直し

2015年01月よりメニューの見直しを行い、それに伴い一食あたりの単価を¥230から¥300に変更。その後、各事業所の反応を受け、再度、業者と調整中。

・就業規則の見直し

支援センターに紹介していただいた社労士と面談するが、他の業務に追われ、手をつけずことが出来なかった。予定では、記念映像の制作の目処が立ち次第着手する予定。

・記念映像の作成

各事業所からのイメージを抽出し業者と準備を進めている。2015年06月下旬完成予定。その後、上映会を開催予定。

・フロンティア、であいの里 移転準備

※別紙参照

・空き巣による盗難被害の経過報告 (フロンティア施設長・鎌田功)

3月3日から4日未明にかけて起きた空き巣による盗難被害については、現在保険金の請求手続きの最中です。壊された耐火金庫とキャビネット等については、耐火金庫は買い替えましたが、キャビネットは購入時期が不明で商品が廃番になっているものがあるため、保険会社に写真を送り調べていただくことになっています。また、防犯対策については、日本部事務室で使用していた防犯システムを移設しセキュリティの強化を図り、現金の管理方法についても職員間で確認し直しました。その後は再び空き巣に入られる被害には遭っていませんが、戸塚警察署からは犯人が逮捕されたとの報告もないため、不審者の侵入防止のため戸締りの確認を徹底し、職員が勤務を終えて帰るときにはその都度玄関の鍵を掛けるなどの対策を取っています。

・日中活動事業所のまとめ (事業部長, 生活介護事業所サービス管理責任者・鎌田功)

フロンティアとであいの里は来年度に予定している移転後の合併に向けた準備を進めるために、職員の配属を変更するとともに、利用者を含めた交流の機会を持つようにしました。後期はおもに月2回程度であいの里の方たちにフロンティアの活動に参加していただきましたが、であいの里の方たちにとっては、地域情報誌ぱどの仕事をとおして、普段おこなっている作業と同じ要領でチラシをぱどに挟んだり、普段はおこなうことのないポスティング作業の機会を持ったりすることもできました。食事や休憩時間では仲間同士や職員との親睦が図れ、交流を重ねるごとにお互いに馴染んでいっているようでした。

そのほか移転に向けた準備としては、実際に候補地を歩いてみて、自分が通うことになるかもしれない場所を知る機会をつくったり、メンバー会議ではこれからおこなっていきたい活動について意見交換をしたりして、移転後のイメージづくりの時間を持つようにしました。職員にとっても利用者の方たちが大切にしていることや望んでいることを知る手掛かりになっています。

Beginは主となるクッキーの製造作業について、バターが品薄になる状況で思うように作業が進められませんでした。試験的にビーズ作業を取り入れたところ関心を持って取り組む方たちが多く、将来的にアクセサリーの商品化を目指すまでになりました。危機的な状況を好機に変えるだけでなく、新たな目標に向かって続けていこうという姿勢を大切にしていきたいと考えています。

いとぐるまは機織作業の技術向上と機織製品の魅せ方を学ぼうという姿勢から他事業所の見学をおこなってきましたが、後期は新たにバスターミナルの清掃作業と室内軽作業(パンフレット封入、塩封入)を始めることになりました。内容の異なる作業を並行しておこなうことは大変だったと思いますが、そこから生まれる達成感を持ち続けられるようにしてほしいと考えています。また、リーススペースの改装も終わったことで、Beginといとぐるまのこれからの事業展開に期待したいところです。

・共同生活援助(グループホーム)のまとめ

(相談支援部長, 共同生活援助サービス管理責任者・川端亜希子)

2014年度の“変化”は、ホーム全体旅行ではなく、2つのホームで旅行に行ってきたことです。

全体で行くことで、入居者・職員がお互いを知ることができる、いつも一緒に生活をしている仲間とはちがう仲間と時間を過ごすことができるなどのプラス面もたくさんありましたが、とても大きな団体となるため、動きがとりにくい、食事場所などの活動場所が限られる、入居者の希望が幅広くなり、ひとりひとりの希望に沿うことができないなどのマイナス面もありました。

社会福祉法人クローバー

2014年度の旅行は、各ホームで入居者と話をする時間を大切に、入居者と共に行先、内容、目的を決めたということが良く分かる、そのホームらしさがとても良く出ている旅行でした。ホームの日々の生活について、ご本人の希望や夢、こうなったら良いな…と言う想いを大切にしたいと考えています。旅行やクリスマス会などのお楽しみも日々の生活の中のひとときなので、生活と一緒に考え、入居者の希望や想いを聞きながら、入居者が参加するだけでなく、企画、準備から一緒に行くことをこれからも大切にしていきたいと思います。入居者の皆さんからのいろいろなアイデアから、より“そのホームらしさ”が出てくることが、変化”していくことがこれからも楽しみです。また、2015年度の支援計画を作成するにあたり、ご本人からの希望を聞くこととなりました。職員が入居者ひとりひとりと面談を行い、希望の聞き取りをしました。現実感のある希望、夢がいっぱい詰まった希望…いろいろな希望があがってきました。『こんな夢を持っていたんだ』『こんな風に考えていたんだ』と新たな発見がたくさんありました。“話すって大切”改めて思いました。これからも、“話しをする時間をつくること”、“話をすること”を大切にしていきたいと思います。

社会福祉法人クローバー（フロンティア）
2014年度（平成26年度） 後期事業報告

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 10月の人事異動により本部職員の鎌田功が施設長兼任となりました。職員体制は副施設長宮川貴子、職員望月直樹・鈴木優梨、そしてであいの里から近藤勇太が配属されました。その他、調理に有償ボランティア1名が週4日入りました。
- ・ 保護者会は定例が12月9日(火)と2月10日(火)、臨時が3月31日(火)に行われ、移転の説明会が2月4日(水)に利用者と保護者の方に行われました。
- ・ 利用者の個人面談を必要に応じて随時行いました。

(2) 利用者

- ・ 利用者数は前期と変わらず男性13名、女性3名の計16名でした。

2. 活動報告

(1) 作業プログラム

- ・ 戸塚区役所から区内のケアプラザに文書を届けるメール便は、引き続き午前中の公用車利用と午後のバスを使つての搬送作業を行いました。書類の受け渡しの際の挨拶をしっかりと行えるよう取り組みました。
- ・ 地域情報誌ぱどのポスティング作業は、今までと同じくメンバーが単独で行うコースと職員同行で配布するコースに分かれて行いました。ぱどにはさむチラシもほとんど毎回あり、チラシの大きさも様々なため、ぱどを手取る人が見やすいように、また配布時に落ちないように配慮しながらはさみました。
- ・ 梶谷工務店様からの工事用型枠金物の整備作業を引き続き行いました。
- ・ 2月に開催された『戸塚区障がい者美術館計画』のポスターを近くの学校・保育園・地区センターに配布する作業を行いました。

作業はどれもメンバーの皆さんにとって慣れているものですが、作業への取り組み方を職員から続けて伝えることで、緊張感を持って、また責任を持って取り組んでいただけていると感じています。

(2) 生活プログラム

- ・ 調理、買い物、清掃、洗濯などの活動をほぼ毎日実施しました。
- ・ 創作活動では2月に行われた『戸塚区障がい者美術館計画』へ出品する作品づくりに熱心に取り組み、書道や絵画、ちぎり絵など個性あふれる作品がたくさん生みだされました。また、ビーズ制作にも積極的に取り組み、「やりたい！」と声がるプログラムの一つとなりました。
- ・ 毎週金曜日の午後に行っているプールは、引き続き石名坂温水プールで行いました。

(3) 地域交流プログラム

- ・ 10月に行われた野菜収穫体験（さつまいも掘り）を地域の方たちと一緒に行いました。

芋掘りは昨年度も行っているため、メンバーの皆さんも慣れていたようでしたが、掘っても掘ってもどんどん出てくるお芋やなかなか姿を現さないほどの大きなお芋もあって、皆さんの笑いが絶えない楽しい交流となりました。

(4) 行事

10月	地域交流野菜収穫体験（さつま芋掘り）
11月	お菓子づくり（スイートポテトづくり）・スポーツ（地区センター利用）
12月	クリスマス会、お楽しみランチ（うどん作り）
1月	初詣、新年会&成人のお祝い、お楽しみランチ（餅つき）
2月	節分、お菓子づくり（チョコレート作り）
3月	ボウリング、スポーツ（地区センター利用）

1月の成人のお祝いは、フロンティアでは数年ぶりに行われました。成人を迎えられた方に記念品をお渡しし、皆さんでケーキを食べてお祝いしました。

3. メンバー会議

後期は移転に関する意見交換の機会を多く持ちました。移転候補地へバスを利用して移動したときの感想や意見を積極的に出していただき、移転候補地を決めるための大切な情報とさせていただきました。また、移転後に取り組むプログラムについても、現在行っているかどうかに関わらず、やっていきたいことを様々な視点から出していただきました。

4. 防災

10月	全体防災会議
11月	広域避難場所(小雀公園)への避難訓練及び避難経路の危険箇所の確認
12月	地震を想定した避難訓練、ヘルメット着脱訓練
1月	火災を想定した防災訓練、消火器訓練、消火器点検
2月	全体防災訓練
3月	一年間のまとめ

・2月に行われた法人全体防災訓練では午前中のプログラムの際に東日本大震災のと同じ規模の地震を想定した防災訓練が行われました。午前中は調理で火を使っていることやメール便や買い物で外出していることが多いため、プログラムごとの防災対策が必須となることを実感する訓練となりました。

5. 2014年度後期のまとめ

後期は2月にインフルエンザA型の流行があり、半数近くの方が感染しました。感染予防に取り組みましたが、感染力の強さに改めて脅威を感じました。重症につながる方はいらっしゃいませんでしたが、今後も注意して取り組んでいきたいと思えます。

また、3月には空き巣に入られて、事務所内を中心に机やロッカーを荒らされる被害がありました。盗難被害は現金のみで、メンバーの方たちの私物や個人情報、書類等の盗難は見られませんでした。以後セキュリティの強化を図りました。

2015年5月8日 副施設長 宮川貴子

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 10月の人事異動により本部職員として移転準備に関わることになった荻津聡の配属先がフロンティアからであいの里に変わり、近藤勇太がフロンティア勤務となりました。
- ・ 10月、12月、2月、3月に保護者会を開催しました。役員会報告、移転に関する事項、次年度年間計画に関するヒアリング等を行っています。
- ・ 1月に個人面談を実施し、個別支援計画を承認していただきました。
- ・ 10月に実習生1名を受け入れ、2014年12月、2015年1月に利用申込書の提出があり、2015年度は2名の新規利用が決まりました。

(2) 利用者 7名（男性6名、女性1名）

2. 活動報告

(1) 作業プログラム

- ・ 受注作業（かまめし袋入れ、袋折り、ちらし作業等）
かまめし作業については、【作業における衛生管理の向上】に着目した取り組みを行い、作業前の手洗いと消毒、テーブル消毒、しゃもじを取り扱うメンバーのビニール手袋着用、頭髪を触る拘りのある方への着帽、部材保管容器の買い替えと清潔保持などを実施。受注作業の受注量を安定させ、定期的な作業提供を行うことができた。
- ・ 自主製品の作成（くつみがき作り、ステンシル）
受注作業の受注量がとても好調だったこと、職員の人事異動等により、コンスタントに取り組むことができなかった。新年度はどのような加工をして商品とするのが相応しいのか検討を重ね、より需要のある商品を作り上げていく為に定期的にプログラムに取り入れていきたい。

(2) 生活プログラム

- ・ 買い物、銀行、郵便局、届け物等
日常的に実施し、メンバーの気分転換、運動の機会を得るために徒歩を心がけ、状況や天候に応じて交通機関を利用した。
- ・ 調理（行事の際に実施）
10月のアスレチック&バーベキュー、12月のクリスマス会、2月のバスハイクなどで実施。メニュー内容はメンバー会議での意見をできる限り反映するように努めた。バスハイクではボランティアや地域の皆様とともに“手作りソーセージ”を体験することができた。
- ・ その他
歯磨き、手洗い、食事準備、片付け、施設内清掃などを感染症予防、口腔ケア、施設内の衛生保持とメンバーの健康状態の把握を目的に常時実施。毎月2回、体重測定を実施し利用者の健康管理に努めた。また体重測定時には手足の観察を行い、感染症等の早期発見、爪が伸びている方の爪切り等を実施した。

(3) 地域交流プログラム

- ・ 地域の防災訓練を兼ねた交流を下記の『防災』のとおり実施。

(4) 行事

10月	24日	アスレチック&バーベキュー
12月	19日	クリスマス会
1月	23日	新年会
2月	18日	バスハイク
3月	12~13日	TDL旅行

※ 2月のバスハイクには2015年度新規利用者2名も保護者同伴で参加しました。

3. メンバー会議

原則、月1回実施。バーベキューの食材選びやどんなアスレチックで遊びたいか、どんなクリスマス会をしたいか、新年会の行き先や誰にお土産を買いたいかなどの聞き取りを行事ごとに行いました。また移転に向けて好きな仕事・やってみたい仕事などの聞き取りも行いました。

4. 防災

10月	防災計画、防災マニュアルの読み合わせと修正、備蓄品確認
11月	作業別防災訓練
12月	地域防災『芋煮会』
1月	合同防災訓練(やまぶき工房、舞柏CP、民生委員等)
2月	地域防災『バスハイク』、法人全体防災訓練
3月	備蓄品、防災リュック中身の確認、消火器点検

- ・ 合同防災訓練では一斗缶と廃材、牛乳パックを使用した火起こしとビニール炊飯を実施。お皿やスプーンを洗わずに済むように、ビニール袋を使用。まな板の代わりに牛乳パックを使用したり、野菜を小さく切り火の通りを早めるなど工夫。

5. 2014年度のみとめ

新しい仲間を2名迎え、職員も新しく仲間入りをした2名が配置され、新鮮なスタートとなりました。新しく仲間入りした4名は色々なことをグン!グン!と吸収し活動に参加してくれました。福祉経験のない新職員2名が加わり、既存の職員は利用者との関わりや“伝え方”など様々な場面で“背中を見られている”“その背中は大丈夫か?”と意識をしながら勤務に当たる良い機会となりました。新職員を“育てる”過程の中で、日々の支援を見直すきっかけともなりました。作業面では受注作業に恵まれた1年となり、コンスタントな受注があり、安定した作業提供と授産収入を得ることができました。単純作業のためメンバーもスムーズに取り組むことができ、作業の成果が目に見えて分かることから、やり甲斐や達成感も大きいようで人気の作業となっています。楽しい雰囲気、活気ある作業風景、個人に応じた作業への取り組み等を実践し、2015年度の新規利用につながったことを嬉しく思います。

2015年4月24日 施設長 春田恵更加

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 職員の小澤康男が定年退職後、4月より嘱託職員として勤務していましたが、11月20日付で退職しました。
- ・ パート職員として高橋明大が11月より入職しました（都合により4月に退職）
- ・ 保護者会を12月18日（木）、3月26日（木）に開催しました。
- ・ 個人面談は期限内にご本人、およびご家族にご説明し、ご承認をいただきました。

(2) 利用者 10名（特に変更なし）

2. 活動報告

(1) 作業プログラム

- ・ 【製パン&製菓】 製法をストレート法から中種法に変更し、パンの食感が向上しています。新商品として抹茶パンの生地には甘納豆を入れておやき風に焼き上げた「抹茶金時」を14年12月より製造開始しました。クッキーのラベルを変更し、よりインパクトのあるパッケージとなっています。なお、バター不足に伴い、サブレクッキーの製造を中断しています。
- ・ 【フリースペース】 地域の皆さんが立ち寄りやすい雰囲気を感じ、看板の掲示方法の見直し、レイアウト変更など行ないました。来客者への接客、ご注文の受付、商品の在庫管理など日常的な作業内容も定着しています。
- ・ 【機織り】 機織り工房の中にB e g i n専用コーナーを設け、適性がある利用者を中心に作業に取り組んでいます。
- ・ 【ビーズ】 試験的にビーズアクセサリー作りを導入し、商品化に向けて準備を進めています。

(2) 生活プログラム

- ・ 【運動】 …隣接する公園を利用して、日頃の運動不足の解消と、お互いのコミュニケーションの向上を図りました。
- ・ 【健康】 …健康診断（年1回）、看護師の巡回訪問による健康相談（月1回）にて体重・血圧測定を実施し、健康状態の確認をしています。必要な場合には家族やグループホームとも連携して健康管理を行ない、特にノロウイルスやインフルエンザが流行する時期には感染対策を徹底しました。
- ・ 【音楽活動】 …音楽療法士をお招きしての音楽活動を行ない、感性や能力を引き出すとともに体を大きく動かし体全体で表現できるような内容を取り入れています。半期ごとにカンファレンスを行ない、利用者の皆さんにも準備の段階や講師の補助として積極的に参加していただく内容を盛り込むことになりました。
- ・ 【芸術活動】 …週1回程度のペースで絵画（平面作品）を中心とした創作活動の時間を設けています。作品もバラエティに富み、装丁してフリースペース（お店）や食堂に展示しています。

(3) 地域交流プログラム

- ・【フリースペース】…地域との繋がりや情報発信の場として有効活用しています。15年2月に実施した内装工事により、より落ち着いた雰囲気となりました。
- ・【買い物】…製パン&製菓の材料、備品や日用品の購入などを通して社会経験の向上とともに、運動不足の解消を目的になるべく歩いて買い物に行くよう心がけました。
- ・【美化活動】…週に1回程度のペースで事業所周辺や隣接する公園のゴミ拾いを実施しています。
- ・【パンの外部販売】 法人内他事業所の昼食用、YMCA学童クラブ（泉区領家）のおやつ用に受注販売しています。別法人事業所の昼食用としての搬入も始まりました。

(4) 行事

10月	
11月	
12月	24日 クリスマス会 25～26日 年末大掃除・仕事納め
1月	5日 仕事始め 16日 新年会
2月	
3月	12日 日帰り外出（横尼市民防災センター見学 韓流ランチ）

3. 防災

10月	29日 法人全体防災会議
11月	7日 地域防災拠点への避難訓練（上矢部小学校）
12月	5日 2階から1階に降りる訓練（傷病人の搬送）
1月	9日 作業グループ別避難訓練（地震想定）・消火器訓練・消火器点検
2月	26日 法人全体防災訓練（地震想定 東日本大震災と同規模）
3月	12日 横浜市防災センター見学

4. メンバー会議（利用者からの意見・要望を一部抜粋）

- ・昼休みの店当番の回数を増やして欲しい。
- ・1月から変更となった昼食メニューの感想（現在業者と調整中）
丼物が多い・汁物が欲しい・日によって品数に差がある他

5. 2014年度のみとめ

製造するパンの種類も増え、改装工事の効果もあってかフリースペース（お店）の雰囲気が華やかになりました。試験的に取り組み始めたビーズアクセサリ作りも利用者の方には好評で、早く商品化して店頭で並べたいと考えています。

なお、14年12月に行なわれた横浜市の監査指導により、併設するいとぐるま（地域活動支援センター型作業所）との区分を明確にするよう指摘があり、改善を図りました。

2015年5月1日

海老原 克憲

社会福祉法人クローバー いとぐるま
2014年度（平成26年度） 後期事業報告

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 11/19 本郷特別支援学校高等部1年生 保護者施設見学会がありました。
- ・ 12/15 利用者賞とお渡しいたしました。
- ・ 12/18 保護者会実施
- ・ 03/26 保護者会実施

(2) 利用者 (13名)

- ・ 利用者2名 入所いたしました。

2. 活動報告

(1) 作業プログラム

・ 機織

11月に、南区の地域活動支援センターこそあどぐるんが主催していた、機織展にいとぐるま作品を出品し、見学にもいきました。他施設作品のコースターの糸のあざやかな配色や、織った布を使って作った小物類などが参考になり、いとぐるまの作品に取り入れていきました。小物づくりの試作も継続していきます。

・ 受注作業（*後期から導入）

① 横浜市交通局上永谷駅バス停清掃委託業務

就労や就労体験を希望する利用者を対象に、10月～3月の契約期間、全24回行いました。参加利用者にとって、実践に近い貴重な社会経験となりました。

② 保険パンフレット封入作業（1月と3月）

黒田保険事務所によるパンフレット封入作業。1つの封筒に3枚程パンフレットを流れ作業で入れていき、利用者同士で協力しながら仕事に取り組む事ができました。年に2～3回の受注のため、来年度も継続していきます。

③ 岩塩封入作業

源気商會によるインターネット販売用の岩塩の受注作業。岩塩の選別、計量、封入などいくつか工程があり、利用者の特性にあわせて、合う工程をやっていただきました。受注作業の限られた納期の中で、利用者も責任感を持って仕事に取り組む事ができました。来年度も継続していきます。

(2) 生活プログラム

・ 園芸活動

後期も利用者に育てたい花を選んでいただき、冬の寒さに耐えられるポピーやビオラをプランターで育てました。冬季もプランターに花を欠かすことなく育てる事ができ、施設の明るい雰囲気や利用者の活動も伝わったと思います。

・ 音楽活動

「トーンチャイム」という新しい楽器を増やし、曲に合わせて利用者が順番に使っていき、楽器の数だけ利用者の音への表現も増えていきました。

(3) 地域交流プログラム

・フリースペース

ふれあい助成金を利用して、フリースペースの改装を3/02,3/03に実施しました。改装内容は、照明をスポットライト型に変更、ピクチャーレール取り付け、壁紙張り替えでした。改装により利用者の機織作品や絵画作品などが、引き立つようになりました。今後も利用者の活動が見える魅力あるフリースペースにしていきます。

・10月カトリック教会バザーに出店し、地域の方々にとぐるまの活動を知っていただく機会になりました。

(4) 行事

10月	10/26 戸塚教会バザー、	10/23 機織施設見学こそあどぐるん
11月	11/14 歓迎会（利用者）	
12月	12/24 クリスマス会	
1月	1/16 成人祝、新年会	
2月	2/26 誕生祝（旅行欠席者）	
3月	3/05 日帰り外出（横浜市民防災センター）	・3/13 誕生祝（旅行欠席者）

3. メンバー会議

行事の内容などメンバー会議を通して決定しました。その他に、プランターで育てたい冬の花を決めて育てたり、フリースペースの当番を改めて決めなおしたり、来年度やってみたい事や行きたい場所など話し合いました。利用者からの意見のききとりを増やし、事業に反映していきました。

4. 防災

10月	10/29 全体防災会議
11月	11/07 地域防災拠点への避難訓練
12月	12/05 2階から1階に降りる訓練 傷病人の搬送
1月	01/09 作業グループ別地震を想定した避難訓練、消火訓練
2月	02/13 合同防災訓練
3月	03/05 横浜市民防災センター見学、2015年度防災訓練計画作成

3月は横浜市民防災センターに初めて見学にいきました。地震体験、暗闇体験、煙体験、職員の消火器を使った消火体験など実践的な体験ができました、

5. 2014年度後期のまとめ

後期は、20代と30代の利用者2名が新たにいとぐるまに加わりました。11月に歓迎会行事をしてお祝いをしました。いとぐるまでは、若い世代の利用者が増えてきており、機織だけでなく、プログラムの幅を広げていく必要を感じていました。そんな時に、横浜市交通局や就労支援センターから受注作業の依頼がタイミングよく入り、積極的にお請けしていきました。利用者も充実感や責任感をもって、受注作業に取り組む事ができたため、今後も継続して受注作業をしていく自信につながりました。

2015年05月14日
施設長 泉 和真

社会福祉法人クローバー 共同生活援助事業 ゆうきの里（みんとの家）
2014年度（平成26年度） 後期事業報告

1. 施設の動向

(1) 施設、職員

- ・ 職員1名3月に定年退職でしたが、勤務延長を依頼。
- ・ 9月25日(木) 個人面談

(2) 入居者

- ・ 男性 6名

2. 支援報告

(1) 生活支援

○日々の支援

“おかえりなさい”『ただいま』と職員とのなにげない言葉のやりとりの中に仕事を終えホッとした気持ちになれるように声をかけています。

個別支援計画での目標等を実現できるよう、日々の支援を行いました。

メンバーひとりひとりの小さな声を聞き逃さず、メンバーの声が反映されるホームを目指す為、メンバー会議や日々の生活の中での入居者の会話に耳を傾けています。

また、12月22日は季節の色や香りを感じてもらう為、ゆず湯を行いました。

ゆずを両手にとり良い香りを楽しまれました。

○休日の支援

休日を利用して、普段行うことができない居室の清掃や布団干し、衣類の整理等をご本人と共に行っています。また、ホームにて共同で使用する日用品などの買い物、ガイドヘルパーでは対応が難しい衣類などの購入をするために、職員と出かける機会が職員不足により実現できませんでした。

○お楽しみ

10月16日(木)～17日(金) 浜名湖、静岡一泊二日の旅行に行ってきました。

新横浜から新幹線にのり浜松町駅へその後路線バスにゆられること42分、浜名湖のほとりの館山寺温泉に到着しました。一日目のお昼は松屋さんという高級店で皆さんの美味しいうなぎを食べたいとのご希望によりうなぎを食べました。

昼食後、浜名湖遊覧船に乗り、湖めぐり。湖からしか見ることのできない景色は素晴らしく、さわやかな風の中、30分の船旅を楽しみました。

また、徒歩で館山寺ロープウェイに乗り、展望台にて記念撮影を行い、湖畔のホテル開華亭に到着しました。大きなお風呂でゆったりした後 “乾杯”の言葉とともに楽しみにしていた宴会が始まり、釜飯やお刺身などととても美味しく皆さん大満足、その後カラオケをして大盛況のなか一日目を終了しました。

二日目はエアーパークという航空自衛隊の浜松広報館にいきました。展示してあるヘリコプターや戦闘機に乗り込み、とても貴重な体験ができ皆さん満足した良い笑顔でした。

3月20日(金)一年間の感謝の気持ちを込めて戸塚モディーの7Fに有るバケットというレストランに行き、事前に決めていた好きな夕食のを食べ、お腹も満たされてGHに帰って来ました。

○健康管理

一年を通して感染症対策を行いました。手洗い、うがいを常にこころがけ予防に努めてきましたが2月に2名のインフルエンザ感染者がでました。迅速な措置によりあらたな感染者を防ぐことができました。

体調管理として朝夕の検温記録を身体状況管理簿に記載、また体重測定を行い健康管理に役立て入居者の小さな変化を見逃さないよう注意しています。

○金銭管理

お小遣いを管理するにあたっては管理に細心の注意を図り、入出金が発生した場合はその都度残金を確認して間違いないように管理しています。お小遣い帳の記載については明確にし、わかりやすい記載に努めています。また、金銭の取り扱いについては複数名でのチェック体制を継続します。お金を使う際はご本人と相談し、有意義でかつバランスの良い使い方を工夫しています。

(2) 地域交流

- ・地域で生活することの大切さを考え、交流をはかるため、日常の挨拶を大切にしました。
- ・町内会の行事には参加することができませんでしたので次年度は盆踊りや町内の防災訓練等に積極的に参加して行きます。

(3) イベント

10月	16日(木)～17日(金) 静岡、浜名湖 1泊2日 旅行
11月	
12月	ゆず湯
1月	
2月	
3月	食事会

3. メンバー会議

入居者の将来の希望等を伺いましたが色々な希望がありとても参考になりました。入居者の関心事に職員は関心をもって会議を進めて行きたいと思えます。

4. 防災

10月	合同防災会議
11月	G H合同防災訓練
12月	火災を想定した避難訓練
1月	防災用品の確認
2月	法人全体防災訓練
3月	2014年度のとめ 2015年度の計画作成

甲種防災管理者講習修了者が居なくなりましたので次年度は甲種防災管理者講習を受講して防火管理責任者を選定して防災管理に関わる消防計画を消防署に相談の上作成していきます。

3. 2014年度前期のとめ

入居より丸2年が経ち、入居者の皆様もご自分のペースができとても安心して日々の生活を過ごしています。旅行や食事会などを通して入居者の皆様と職員の絆をより一層深める事ができたと思えます。

2015年4月20日
主任 梅谷博文

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 10月31日付 職員1名退職
- ・ 2月28日付 職員1名退職
- ・ 2月10日付 パート職員1名採用
- ・ 2月25日付 契約パート職員採用
- ・ 10月7日, 14日, 18日 個人面談実施

(2) 入居者

- ・ 男性 6名

2. 支援報告

(1) 生活支援

・ 日々の生活支援

開所時より、入居者の皆さんが、一日の仕事を終え疲れて帰って来られた時にホッと出来る、ご自分の家と思って頂けるようなホームにしたいと努めてきました。その為の雰囲気づくりに職員は注力し、皆さんの意見、要望は、月一回のメンバー会議にて吸い上げています。

入居者がホームにて転倒し、骨折するということがありました。ホームの入居者の高齢化が進んでいます。障がい福祉だけでなく、地域の高齢福祉事業所の協力を得ながら、日々の生活支援、住環境を考えていくことが必要になっています。

・ 休日の生活支援

休日を利用し、入居者ご本人と一緒に自室の掃除や整理を行っています。必要な日用品や衣類等は、ガイドでの外出時に、ご本人に選んでいただき購入するようにしています。休日に、職員と一緒に近所の公園に散歩に出かける事も考えていましたが、職員不足により、残念ながら出来ませんでした。

・ お楽しみ

旅行、クリスマス会、誕生日会、食事会などを行いました。旅行は、何度もミーティングで希望を募り、皆さんの、うなぎが食べたい、という意見が多かったため、一泊二日にて、浜松は館山寺温泉に行ってきました。おいしいうなぎをお腹いっぱい食べ、浜名湖の遊覧船やロープウェイを楽しみ、皆さん大変ご満悦でした。誕生日会は、1月に入居者5名の誕生日が重なるため、皆さんのご希望により、2回に分け、少し豪華に行い、喜ばれました。

・ 健康管理、身体管理

帰所後の手洗い、うがいなど、感染症対策を万全にし、ほとんどの入居者の方に、インフルエンザの予防接種を受けて頂いたにもかかわらず、2月に入居者が、インフルエンザにかかりました。すぐにご家庭と調整し、ご家庭のご協力でご自宅静養をして頂いたため、他の利用者に感染する事も無く、インフルエンザにかかった方もすぐ元気になられています。今回は、ご家庭で静養していただきましたが、罹患された方がホームで安心して静養することができるようにしていくことが今後の課題です。

また、朝夕に検温を実施、体重測定も毎月行い、健康管理に役立てています。

・ 金銭管理

今まで同様、小遣い管理には細心の注意を払い、入出金の残金はその都度確認し、間違いがないようにしています。また、複数名によるチェックを行っています。

(2) 地域交流

- ・ ご近所の理解が欠かせないと考え、利用者、職員ともに、挨拶等しっかりやるようにしています。
- ・ 町内会の行事に参加することが出来ませんでした。今後は、盆踊りやお祭り等の行事、防災訓練などに参加し、地域の方に知ってもらう機会を大切にしていきます。

(3) 行事

10月	浜松旅行・職員送別会
11月	
12月	ゆず湯、クリスマス会
1月	
2月	節分の豆まき、職員送別会
3月	みんとの家との合同食事会

3. メンバー会議

- ・ 今期も会議において、斬新なアイデアをいただいたり、皆さんの心の中をのぞくことができたりと、大変有意義でした。これからも、単に希望を伺うだけにとどまらず、より良いGHづくりの参考にしていきます。
- ・ 旅行の行先などの大きなテーマだけではなく、日常の些細なことにも、意見を募って行きたいと思います。

4. 防災

10月	合同防災会議
11月	GH 合同消火訓練(消防署)・避難経路確認・消火器訓練
12月	火災を想定した訓練・消火器訓練・消火器点検
1月	防災用品確認
2月	法人全体防災訓練
3月	2014年度のまとめ・2015年度の計画作成

- ・ 現在、甲種防災管理者講習修了者が不在の為、次年度には講習を受けて、防火管理責任者をおくようにします。

3. 2014年度のまとめ

- ・ わずか半期中に、職員が2名辞めるという事態になりましたが、幸いそれに影響を受けた利用者の方もおらず、皆さん、楽しく毎日を過ごされています。今期は、予定していた行事に加え、食事会を新たに行い好評でした。これからも、より楽しい生活づくりに努めたいと思います。

2015年5月11日

れもんの家 副主任 櫻井 威津雄

社会福祉法人クローバー 共同生活援助事業 ゆうきの里(みかんの家)
2014年度(平成26年度) 後期事業報告

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 9/30, 10/3, 10/5, 10/10に個人面談を実施しています

(2) 入居者

- ・ 男性 6名

2. 支援報告

(1) 生活支援

・ 日々の支援

入居者・職員共に絆も深まり、相談以外にも職員との談笑の時間を楽しんでくださっている入居者も増えました。その日あった日中施設での出来事や、休日の外出先での出来事などを笑いを交えながら楽しそうに報告していただきます。

言葉で伝える事が苦手な入居者とは、その方が好きなテレビと一緒に観たり、好きな曲と一緒に聴いたりする事でその方の好みを知ると共に、楽しい時間を共有する事で信頼関係を少しずつ深めていきました。

メンバー会議では旅行の行先などを皆さんで決め、今回はバスでの旅行がしたいという意見が入居者から挙がりましたので、バス旅行に決定しました。

・ 休日の支援

休日にガイドヘルパーの利用をしている入居者は、色々なものを見て体験できるよう、行き先が以前行った場所と重ならないよう工夫をしました。行きたい場所が上手く伝えられない方や、どこに行きたいのかわからない方にはパソコンの映像などを使い、一緒に映像を見ながら楽しい場所を探し行先を決めています。

また大型連休中に帰省できなくホームに残られている入居者に関しては、職員と外出したり、外食を楽しんだり楽しく連休を過ごせるように工夫しました。

・ お楽しみ

10/28にハロウィンパーティーをおこなっています。今回初の行事でしたが入居者の皆さんは仮装がとても楽しかったようで大変盛り上がりました。来年以降も継続してハロウィンパーティーをおこなっていききたいという意見が多かったので、毎年の恒例行事にしたいと思います。

12/23に行われたクリスマス会ではカラオケやビンゴ大会を取り入れ、入居者の皆さんが飽きないよう工夫しました。皆さんカラオケが大好きで、休日などにカラオケをよくしているので、特別プレゼントは現在使用しているカラオケの曲数を増やすチップとしました。皆さん歌える曲が増えとても喜ばれていました。

・ 健康管理, 身体管理

2月に入居者と職員がインフルエンザに感染してしまう事がありました。入居者の発熱を確認し早急に通院するよう努めましたが、インフルエンザと診断がおきるまで普段通り皆さん一緒に生活していたため、ホーム内での感染が広がってしまいました。今回の事を課題にし、入居者の変化を見逃さないよう、また職員も体調管理を徹底しホーム内の感染を防ぐよう努めたいと思います。

・金銭管理

大切なお小遣いなので、御本人、御家族と相談し無駄使いの無いように注意しました。自分でお小遣いの管理ができる入居者に関しては、毎月お小遣い帳をつけてもらい職員とお小遣い帳を確認する時間をつくり、お金の大切さを学ぶことができるよう支援しました。

(2) 地域交流

・泉区 GH ワーキンググループ参加

泉区の GH 職員が毎月 1 回集まり、情報交換などをする場「泉区 GHWG」に参加しています。今後も定期的に参加し、泉区内の GH 職員と情報交換を図りたいと思います。

(3) イベント

10 月	ハロウィンパーティー
11 月	
12 月	クリスマス会
1 月	
2 月	
3 月	ひな祭り

3. メンバー会議

メンバー会議では主に GH 旅行の行先やクリスマス会で何がしたいかなどを話し合っています。また GH の食事の量について話し合っています。食事の量については過去にも何度か議題に上がり入居者の声をくみ取り、食材業者と話し合ってきましたが、今回は現在の食事量に満足されている方が多かったので、食事量は変更しない事で決まりました。日によりメニューが偏っている事があるという声が職員・入居者からあがりましたので、食材業者と話し合い改善をお願いしています。

4. 防災

10 月	合同防災会議
11 月	GH 合同消火訓練・避難経路確認・消火器訓練
12 月	火災を想定した訓練・消火器訓練・消火器点検
1 月	防災用品確認
2 月	法人全体防災訓練
3 月	2014 年度のとまとめ・2015 年度の計画作成

ゆうきの里 4 ホーム合同で消火訓練をおこないました。消防署から水消火器を借りての消火訓練の他に、避難訓練方法の意見交換などをおこない、違う視点での意見を聞くことができ、とても実のある訓練になりました。

施設内の防災設備については 3 月 4 日に平山防災設備による定期点検が行われています。点検結果に異常はありませんでした。

5. 2014 年度後期のまとめ

入居者・職員共に信頼関係も深まり、自分の意見や要望を素直に伝える事ができてきたように感じます。行事の内容や行先を決める時も皆さんが意見を言うてくださり、皆で決める事ができるので、以前にも増し一体感が生まれ行事を楽しむ事ができるようになりました。これからも皆さんの意見をくみ取り、楽しんで生活できるホームを皆さんでつくっていきたいと思います。

2015 年 4 月 23 日 みかんの家 主任 加藤 学

1. 施設の動向

(1) 施設

- ・ 個人面談を 9/24, 9/26, 9/30, 10/2 に行っています。

(2) 入居者

- ・ 女性：6名

2. 支援報告

(1) 生活支援

・ 日々の支援

入居者の話をいつでも聞くことができる様なアットホームな雰囲気作りを心がけ夕食後のリビングでの団欒の時間にみんなでお茶を飲む時間をもうけています。

その時間の中で、日々の悩みや不安を溜め込まないよう、その日の様子などを聞きました。話しをした後、入居者はホッとしたような顔をしていました。

・ 休日の支援

ガイドヘルパーを利用している入居者は、事前にご本人とよく相談し天候や季節に合わせた外出先を決めています。ガイドヘルパーでは対応の難しい、衣類などは職員と買いに行ったり、散歩に出かけたりして休日にホームに籠りつきりにならないよう工夫をしました。

また普段できない、ダンスの中の片付けや窓ふきなども職員と一緒に行いました。

・ お楽しみ

・ 10月31日：ハロウィンパーティー

今年度初めてハロウィンパーティーを企画してみました。

入居者の皆さんも仮装のための道具を見て『自分はどれにしようかな』と真剣に悩んでいました。パーティーも普段しない格好に入居者の皆さんのテンションも高く大盛り上がりの中終了することができ、『来年もやりたいわ』という声を聞くことが出来ました。

・ 12月23日：クリスマス会

今年度のクリスマスは、23日にホームにて前夜祭を行い、24日に外食を楽しみました。

23日は、ゲームをやったりケーキを食べたりしました。24日は、湘南台にあるちょっとお洒落なレストランでクリスマスのコースを頂きました。入居者の皆さんも『美味しい』と笑顔が多かったです。バスでの送迎も楽しかった様でとても好評でした。

・ 3月3日：ひなまつり

2014年度最後に、お寿司とひな祭りの和菓子を食べて、ひな祭りのお祝いをしました。

普段あまり食べることがないお寿司を美味しいと喜んで食べていました。

・ 健康管理、身体管理

毎日の手洗い、うがいの徹底、「身体状況管理簿」「体重管理表」の記入をし、各入居者の小さな変化に気付くことができるよう努めました。みかんの家にインフルエンザが発症した時もホーム内の消毒などに気を配り、入居者全員がインフルエンザにかかることなく過ごせました。

・ 金銭管理

1万円以下の現金は、鍵付の引き出しに、1万円以上の現金は、金庫にて管理するように徹底しました。

また、将来自分のお小遣いを管理することを目標としている入居者と、まずは、飲み物代などの毎日のお小遣いをお小遣い帳に記入することを始めました。

(2) 地域交流

10月19日(日)に、地域のお祭りに初めて参加しました。

開催している場所がわからず、ちょっと迷ってしまいましたが、無事につくことが出来ました。地域の方がやっている露店などで焼きそばを買ったりゲームをして遊んできました。

(3) 行事

10月	ハロウィン
11月	
12月	ゆず湯、クリスマス会
1月	
2月	節分(豆まき)
3月	ひな祭り

3. メンバー会議

月2回のメンバー会議で、旅行の話や今後どんなおやつを食べたいか、いちごの家で何をしたいかなど話し合いました。

2015年度の旅行は、温泉でゆっくりしたいという事から草津温泉に決まりました。

4. 防災

10月	合同防災会議
11月	GH合同消火訓練、避難経路確認、消火器訓練
12月	火災を想定した訓練、消火器点検、消火器訓練
1月	防災用品確認
2月	法人全体防災訓練
3月	2014年度のまとめ、2015年度の計画作成

GH合同消火訓練では、いちごの家みかんの家だけでは気付かないことにも注意することが大事だという事に改めて気付かされました。

例えば、台所火災などの場合は、天井に火が届いていた場合は消すことは一般の人には無理なので逃げることを優先した方がいいことなどを確認することが出来ました。火災通報装置の使い方についても、確認することが出来ています。

施設内の防災設備については3月4日に平山防災設備による定期点検が行われていました。点検結果に異常はありませんでした。

5. 2014年度のまとめ

今年度も職員の入替わりがなく、ホームも落ち着いたことにより、入居者皆様も以前に比べて落ち着いた生活を送ることができていると思います。

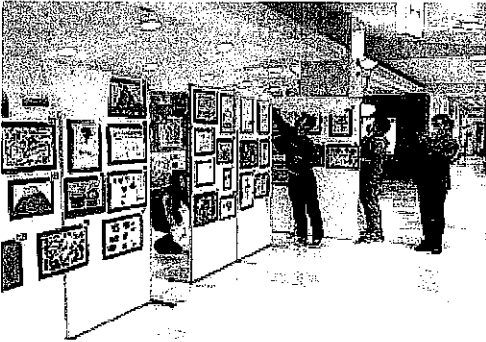
今後は、どんなことでも相談でき利用者の皆様がより楽しいと思えるようなホームを目指して職員全員で協力していきたいと思えます。

2015年5月6日

いちごの家 副主任 佐藤 礼子

地域との関わり，研修

①自立支援協議会 関係

<p>・事務局会議会議（偶数月開催） 出席：高橋良壽</p> <p>内容 担当者会の事前準備，情報交換，情報共有</p>	
<p>・担当者会（奇数月開催） 出席：川端亜希子</p> <p>内容 11月 個別支援級の現状と課題について，次年度の取り組みについて</p> <p>01月 事例検討会</p> <p>『知的障がいのある母子世帯，兄の通所先検討を中心に家族全体の支援について』</p>	
<p>・災害対応分科会 出席：川端亜希子</p> <p>内容 10月 戸塚区役所防災担当係長との懇談，台風への対応について</p> <p>12月 これまでの振り返りと来年度の展望</p> <p>02月 来年度の方向性について，リスクの種類・内容について</p>	
<p>・地域啓発分科会 出席：海老原克憲（高橋良壽）</p> <p>内容 作品展の準備と開催</p> <p>場所：ダイエー東戸塚展</p> <p>期間：2015年02月08日（日）～22日（日）</p> <p>オープニングセレモニー→</p>	
<p>・通所状況等に関する情報交歓会</p> <p>11月 特別支援学校，養護学校との意見交換（出席：春田，泉）</p> <p>01月 区の希望者の状況と事業所の来年度の受入状況について（出席：鎌田，春田，泉）</p> <p>03月 来年度の活動について（出席：鎌田，石橋，春田，泉）</p>	
<p>・グループホーム連絡会</p> <p>内容 10月 あんしんセンター職員と懇談 あんしんセンター，成年後見人制度，貢献的支援制度（出席：高倉，菅原，川端，高橋）</p> <p>11月 ひやりはっと，事故報告書の作成について，作成時の注意等（出席：高倉，川端，高橋）</p>	

01月 入居者への声かけ、呼び方、入居者同士の会話への介入

(出席：川端, 高橋)

02月 3年間のまとめ 運営の観点から、職員の課題

(出席：川端)

●泉区自立支援協議会 グループホーム連絡会

後期より、みかんの家・いちごの家は所在地が泉区のため、泉区のグループホーム連絡会に参加することとなる。

開催日 03月12日 場所 松風学園 出席：菅原

内容 ○26年度のまとめ (GH見学・人材確保・社会資源)

○27年度に向けての議題の検討

(・制度についてなどの勉強会・事例検討会・社会資源 ※継続)

②戸塚区社会福祉協議会 関係

・障がい分科会 出席：高橋良壽

内容 障がい者週間シンポジウム(12/10) 進行：高橋良壽, 小泉晴夫, 河内翔馬

・移動情報センター推進会議 出席：高橋良壽

内容 移動に関する情報交換, 課題解決に向けての意見交換

事業者との懇談会

10/24 ガイドボランティア研修にて発表(平石幸治, 河内翔馬)

11/14 スキルアップ研修『問題行動への対応』 参加：荻津聡, 高橋良壽

②その他

・戸塚区地域ネットワーク見守り事業「みまもりネット」で事例発表 発表：高橋, 小泉, 河内

開催日/2015/02/25 場所/戸塚区役所8階大会議室

内容 2013年12月に戸塚区社会福祉協議会障がい分科会で作成した映像作品『まちものがたり～知的な障がいのある仲間たちの暮らし～』を上映。その後、写真を使って小泉さん, 河内さんがみかんの家での暮らしを説明する。会場には協力事業者として、福祉関係以外に、警察, 消防等関係者やコンビニ, 理美容店, 金融機関, 新聞卸業者など50名程が来場していました。

③研修

- ・『初任者研修 社会人経験者編』 主催：ウイリング横浜
09月16日, 10月22日, 10月23日 参加：近藤
- ・『アンガーマネジメント研修』 講師：小林浩志氏（日本アンガーマネジメント協会公認ファシリテーター）
11月11日 参加：加藤, 遠藤, 佐藤, 菅原, 梅谷, 櫻井, 大崎, 高倉, 石橋, 川端, 高橋
- ・『院内感染対策のあり方について』 主催：十愛病院 講師：岡部信彦 Dr
11月17日 参加：泉, 金子
- ・『アスレチックトレーナーに学ぶ怪我や体調不良の初期対応について』
主催：活動ホームしもごう 講師：浅井隆之氏（Polar Bear Trainer's Team 代表）
08月07日 出席：春田, 三浦
- ・『横浜市障がい者GH職員向け研修・障害がある人の権利擁護』 講師：堀江まゆみ氏
09月10日 出席：菅原
- ・『障害を持つ仲間の実情や支援のあり方』 主催：福祉を創る学校
02月22日 出席：三浦

※特記

自立支援協議会関係 2015年度より参加メンバーを一部変更, また新しく職員を追加

みかんの家, いちごの家からの申し出により泉区のGH連絡会に参加

移動情報センター主催の研修に日中事業所の職員が参加

研修 一部、職員が情報提供に対し積極的に参加

みかんの家職員からの申し出によりみかんの家主催の研修を実施

戸塚区地域ネットワーク見守り事業「みまもりネット」に参加

■ 『ひやりはっと』 報告

別紙

○ 10月

・利用者怪我

内容：通所時、同行のガイドヘルパーより「いつもと歩き方が違い、足を引きずるように歩いていた」との報告を受け、職員が確認したところ、指全体が腫れ、青くなっていた。ご家族に連絡し、状況説明をしたところ、昨夜の入浴の際に赤くなっていたとのこと。ご家族の対応で、整形外科に通院。

改善方法：利用者が更衣室で着替えをしている際には、有事の際の対応のために、職員が見守りを行うこととなっているが、前日の帰りの着替えの時には、誰も着替えに立ち会えていなかったため、きちんと立ち会うように改善。

○ 12月

・早朝不審者訪問

内容：6時の勤務開始時に、実地試験中の求人応募者より「早朝5時15分頃、玄関付近でノックする音が聞こえた」と職員へ報告があった。

改善方法：6月に不審者のホーム侵入、7月に夜間の玄関をノックする音が聞こえたこと、同じようなことが続いている。防犯の意識が薄れないように、定期的に防犯について、職員間の確認と入居者へも伝えていく。合わせて、敷地内入口にポールチェーンの設置（設置済み）、れもんの家玄関横の門に鍵付きチェーン、敷地内の砂利を歩くと音がする砂利への変更などのホームの周辺の整備を進める。

○ 3月

・給食の異物混入

内容：食事時のパスタの中に、紙のような破片を利用者が見つけた。職員が確認したところ、固形コンソメの包み紙と判明。調理パートに確認をしたところ、コンソメを入れる際に、混ざってしまったかもしれないとのこと。

改善方法：朝のパート職員と職員のその日のメニューや食数確認などの引継ぎをする際に、『異物等の混入がないよう十分に気を付けて下さい。不審に思うことがあったらすぐに報告して下さい』と、声に出して確認と注意喚起を行う。

■ 『事故報告書』 報告

・おでこ打撲

内容：就寝準備のため、居室に戻ったが、しばらくして「おでこを机にぶつけた」と本人より申し出あり。職員が確認したところ、おでこが大きく腫れ、内出血が見られたため、通院対応。1ヶ月間の経過観察となる。

改善方法：ご家族へ連絡した際、ご本人の健康状態により、物の距離感がつかめていないことから日常の行動の変化が見られるとの意見があった。居室の家具等の配置をご本人の健康状態に合わせ、安心して生活を送ることができる居室づくりをご本人と一緒に

に考えていく。また、今回、ご本人からすぐの申し出があったことから、早い対応をすることができたことをご本人へ伝え、今後も何か困りごとがあった時にはすぐに申し出るようお願いしていく。

・転倒による肋骨骨折

内容：トイレに行くために、ソファより立ち上がったところ、足元がすべり身体が後方へ行き、近くのTVに接触し床に尻餅をつく。年始だったため、事故発生後から2日経過後に通院対応。

改善方法：通院対応は、事故後速やかに対応すること。法人上位者・ご家族への連絡も速やかに行うこと。関係職員と外部の第三者のアドバイザーを含め、ケース会議を行い、日々の生活支援の見直し、生活環境の見直しを行い、日々の支援に生かしていく。

・タクシー乗車中にタクシーに他自動車接触事故

内容：利用者と職員で区役所へ手続きに行った帰りのタクシー利用時に、施設の駐車場へ入る手前にて、後方からの自動車とタクシーの接触事故。救急搬送により医療機関受診。大きなけがは無く、2ヶ月間の経過観察。

改善方法：利用者とタクシーに乗車するという事は、乗車しているという事は、乗車しているタクシーが事故を起こすこともあることを自覚し、事故時の対処、対応について確認していく。

・転倒による後頭部打撲

内容：午後の活動中、背後に椅子が無いことを確認しないまま座ろうとし、そのまま後ろに転倒。テーブル天板部分に後頭部を打撲。通院対応。24時間の経過観察。

改善方法：気持ちが高まりやすい場面では、より動きに気を配り、危険と思われる際には、声を掛けるなどの支援。職員がさりげなくサポートすることができるよう、隣に職員が座るなどの職員の配置についても配慮する。

・誤飲未遂

内容：昼食の食事中、利用者が口の中から2cm大のネジが出てきた。

配膳時、調理パート職員が、炊飯器の取手のぐらつきに気づき緩んでいるネジを外した際、1つのパーツが足りないことに気が付いたが、そのまま配膳を継続。配膳時に何らかの経緯で食事の中に紛れ込んでしまったことが原因と考えられる。

改善方法：炊飯器の取手のネジ止めを行う。全パーツが揃っていることを確認。他の部分のネジの確認も行い、緩みが生じていたため締め直す。

備品の破損や食材の不備など調理中に気が付いた点があれば、その場で報告するように調理パート職員に依頼。注意文章の掲示。

支援の振り返り

2015年10月から2016年03月までの間に各事業所の職員会議で取り上げた事、利用者との関わりの中で直接利用者から聴いた話などなど。 答えが出たもの、出ないものいろいろありますが、その時に出了た言葉を並べてみました。

●支援計画に本人の希望欄がなかった…。

支援計画作成前にご本人と面談。 話を聞いたり、希望を聞いたり。 すると…。

- ・美味しいご飯が食べたい、寿司・ハンバーグ、カラオケやゴルフがしたい、コーヒー、相撲取りになりたい…などなど。 その希望に対して担当者が、利用者の関心に関心を持ちながらご本人がワクワクするような支援計画を作成。
- ・〇〇しないように注意します、〇〇しません、そんな事を話して下さった利用者もいました。 その方には支援計画と面談において、まず辛い思い、窮屈な思いをさせてしまった事を謝罪し、その点を改善するような支援計画を作成。

→支援計画の作り方、視点に変化を加えた。

●旅行にて…。

夕食後や朝食前に一人でお風呂に行きたいという利用者

- ・何かあったらどうする、という慎重論もあつたり、職員がさりげなくついて行けば、という意見には、一人で入りたいのではないかという意見も。

今まで、一度もしたことがなかった議論ゆえとても盛り上がる。

→1人でお風呂に行きたい利用者は、職員に一言その旨を伝えてから行ってもらうように、お願いすることに。

●利用者同士の言葉使い、付き合い方

ちょっと度が過ぎると思われる場面。 ついつい見て見ぬふりも…。

その都度、その言葉はとても悲しい、そんな事をしないで欲しいとお願いしていく

●ある利用者からの要望が、いつも決まった特定の職員

どの職員にも話が出来ようになって欲しい

別にそれでも良いのではないか…

たとえいつも同じ職員でも話を持ちかけてくれる事は嬉しい事ではないか

でももしその職員が退職、異動、長期休暇になったらどうする

→その時に考えれば良い

利用者の方が職員の異動や変化に慣れているのでは

●入居者の嗜好品の購入について

→ホームの物と一緒に職員が購入するのは絶対にやめよう

いつも同じ物を購入しているが、本当にそれで良いのか

→たまには新商品や話題の物を勧めてみることも是非、試してみたい。 選ぶ喜びも大事。

- 休み時間に壮年期の男性がミニカーやおもちゃで遊んでいる事についてどう思うか
別に普通だと思う、自分も好き
活動中にそれを引きづる事もないので問題ないと思う
- 休み時間にビデオを観る事が出来る　そこで幼児用の番組を録画したのは見るのはどうなのか
不快に思う人がいなければ良いのではないか
好きな利用者はたくさんいる
→リクエストする人が偏らないように注意する
みんなでレンタルショップ等に行き嗜好や傾向を調べてみる
- 毎日、お茶をこぼして注意されている利用者への対応について
職員が注意している様子を見て不穩になったり、その職員の注意の仕方を真似る利用者があるので改善したい
わざとこぼしているところもあると思う
→これは負の承認欲求　普通でいる事に注目されないと特別になろうとする行動ではないか
負の行動に注目しない事とお茶を運ぶ方法を変えた方が良い
- 日中活動中の買物について
日中活動で施設の物を買に行った際、個人の物を買いたがる利用者がある。
ある程度は良いのでは、そこで経験も出来る、ガイドとの買物では練習できないこともある
買って良い時と買ってはいけない時の区別はきちんとつくのか
買いたくても買えない利用者への支援もできるのか
→誰にも均等な支援をするのは難しいので日中活動中に個人の買物はひかえる